

第4回浪江町除染検証委員会議事要旨

- 日時 : 令和4年11月21日(月) 10:30 ~ 14:30
- 場所 : 道の駅なみえ 大会議室
- 出席者 : 井上委員、塚田委員、眞田委員、床次委員(順不同・敬称略)
- 福島地方環境事務所 環境再生課 中村課長
- 福島地方環境事務所 環境再生課 川道専門官
- 福島地方環境事務所 環境再生課 上野調査員
- 福島地方環境事務所 浜通り北支所 桜庭支所長
- 福島環境再生事務所 浜通り北支所 浪江分室 永田専門官
- 福島環境再生事務所 浜通り北支所 浪江分室 安野専門官
- 復興庁 福島復興局 大宮参事官補佐
- 復興庁 福島復興局 浪江支所 平浪支所長
- 福島県 生活環境部 中間貯蔵・除染対策課 峯村主任主査
- 福島県 生活環境部 中間貯蔵・除染対策課 佐々木主査
- 浪江町 : 成井副町長
- 住民課 柴野課長、佐藤課長補佐、田中主査

【資料】

資料1 「第4回浪江町除染検証委員会事業計画」

資料2 浪江町除染検証委員会における検証結果報告（特定復興再生拠点区域）【案】

資料3 町内川添地区の共同墓地周辺の線量調査結果について

その他 町民からの放射線不安による質問について

別添資料 「準備宿泊時における対応策の実施状況報告」

1 開会

発言者	内容
事務局	(開会宣言)

2 あいさつ

発言者	内容
成井副町長	(開会に伴う挨拶)

3 第4回浪江町除染検証委員会について

発言者	内容
事務局	(資料1に基づき説明)

4 議題

◆ 特定復興再生拠点区域における検証結果報告書最終とりまとめ

発言者	内容
町・佐藤補佐	<p>検証結果報告書のとりまとめに先立ち、現在実施されている準備宿泊において委員会より提言をうけた対策について、町より回答をしていました対応策の実施状況のご報告をさせていただきます。</p>
町・田中主査	<p>(別添資料に基づき説明)</p>
塚田委員長	<p>①について、先日訪問した準備宿泊者は、自宅内の空間線量率を自分で測定していると話していました。実施状況欄に「測定希望者なし」と記載していますが、ご本人が自身で対応していることを記載しておいた方がいいと思います。</p>
田中主査	<p>分かりました。記載します。</p>
塚田委員長	<p>③の食品検査の結果は、速報を電話で報告とありますが、早くお伝えした方がいいので、それは良いことですが、電話の他に文書でもお伝えした方がいいです。結果を送付しているのであれば、「結果は電話で速報を報告し、後日文書で送付している。」と書いてください。</p> <p>また、受入れ体制等の詳細情報の HP 更新を予定とありますが、いつ頃になりますか。</p>
田中主査	<p>担当課に確認したところ対応可能であったので、近日中に実施するように要望します。</p>

井上委員	食品検査の結果、高い値が出た場合は、個人の特特定がされないように掲載しているのですか。
田中主査	氏名や採取地区は載らないので、個人の特特定はできません。
塚田委員長	町の HP に載せることについては、ご本人の了承は得ていますか。
町・柴野課長	掲載される内容は、品目と値のみなので、それ以外の情報は載せていません。
塚田委員長	一応、ご本人の了承の有無を確認しておいてください。
塚田委員長	⑤について、個人被ばく線量推計システムは、他にも設置されているのですか。
眞田委員	浪江町の他に、葛尾村や富岡町などです。
塚田委員長	それでは、町民は自由に触って（確認して）いる状況ですね。
柴野課長	はい。
塚田委員長	D-シャトルの結果で、1日の線量のグラフがありますが、朝方が他の時間と比べて高めの時があります。機会があれば、どこにいた時なのかを確認してほしいと思います。昼間に高めになるのは外にいるのだと思いますが、朝はどういう理由なのか。 また、大変貴重なデータとなりますので、今後も戻ってくる方が増えると思いますが、戻ってくる方の分は、ぜひ D-シャトルのデータを取ってほしいと思います。
眞田委員	宿泊者は何名ですか。

成井副町長	6名です。ただ、すでに一度終了して避難先に戻った方などもあります。
塚田委員長	分かりました。ご報告ありがとうございました。
佐藤補佐	それでは検証結果報告書に移ります。資料2をご覧ください。 (資料2を読み上げ説明)
塚田委員長	まず、別紙で付けている環境省の報告資料について、検証結果報告書の本文に記載していませんでしたので、記載が必要です。
柴野課長	検証結果1行目の「環境省からの報告によれば」の「報告」の後に、「(別紙)によれば」と追記する形で対応します。
床次委員	細かい文言の修正を幾つかお願いします。 「被ばくシミュレーション」⇒「被ばく線量シミュレーション」、「被ばく量」⇒「被ばく線量」、「空間線量測定」⇒「空間線量率測定」、「放射性物質濃度測定」⇒「放射性物質濃度の測定」
井上委員	対策の①の2つ目、「住民の被ばく線量の管理に努めること」⇒「住民の被ばく線量の管理をすること」 これは努力義務ではなく、やった方がいい内容です。
眞田委員	検証結果本文の、「60%の低減」は64%の間違いです。ただ、64%となると、宅地の66%と特に差が無いので、比較記載する必要があるかどうかですが。
塚田委員長	「特に宅地の線量率は」の「特に」を削除し、「(宅地の線量率は～)」とした記載に修正します。

眞田委員	報告書の前書き部分の「除染等による空間線量率などの低減効果等について」の文章が、重複している印象となります。
塚田委員長	「除染等による空間線量率等の低減効果について」に修正します。
塚田委員長	環境省や福島県からは気になる点はありませんか。
県・佐々木主査	対策③で森林について記載がありますが、森林以外の追加除染の対策については記載がないですが、その点の記載はしないのですか。
成井副町長	対策①の3つ目で対応可能と考えています。
佐々木主査	了解しました。
環境省・中村課長	対策⑤の仮置場対策について、厳密にいうと、除染廃棄物仮置場というのは、除染による廃棄物と汚染除去土壌に分かれます。すべての総称として通常「除染仮置場」として呼ばれていますが、この仮置場は、どのような仮置場を指していると考えていいのでしょうか。
井上委員	すべてを含む除染廃棄物仮置場です。汚染土壌も含めて。
塚田委員長	それでは、「除染廃棄物（除去土壌等）仮置場」と記載します。
床次委員	対策③で、森林の除染の範囲を明記していませんが、森林が全て除染されていると勘違いされないでしょうか。
成井副町長	別紙に「林縁は20mの範囲」と記載があるので、こちらで確認できると考えています。
眞田委員	③に「森林の未除染箇所への対策」とありますが、「森林への対策」が適当と思います。

床次委員	③の文章に、「追加除染の早期実施等」とありますが、「等」とは、何になりますか。除染の他に何かありますか。
塚田委員長	除染の他に、線量低減対策としては、被覆する方法も考えられますので、「等」は残した方がいいと考えます。
塚田委員長	では、以上の修正で最終版としたいと思います。

◆ 個別案件について

発言者	内容
川道専門官	(資料3)に基づき説明) こちらの場所（森林部分）は、比較的平な場所となっており、斜面ではないので放射性物質を含む土等が落ちてくることはないと考えています。 また、以前除染（堆積物除去）はしていて、今回できる対策としては、堆積物除去より強い対応の、土を取る除染をしたいと考えています。
塚田委員長	以前の除染後の数値はどのくらいですか。
川道専門官	1.18～1.5 μ Sv/h くらいです。
塚田委員長	今回の値は以前より上がっているのですね。墓石はふき取り除染ですか。
川道専門官	はい。
床次委員	1mの数値の方が高いので、やはり森林からの影響だと考えます。
塚田委員長	今回は土を取って入れ替えるということで、それで様子を見るのですね。 それで下がれば、というところですね。

川道専門官	土を取って、山砂を入れたいと考えています。
眞田委員	T様だけならいいですが、似たような場所（配置）があると思いますが、除染範囲が広がってくる可能性があります。
川道専門官	どこまで影響を下げるか、どの程度の土を取ることができるか、加味して考えてやっていきたいと思っています。
塚田委員長	コンクリート部分はどのような除染をやったのでしょうか。高圧洗浄はできないでしょうし。
永田専門官	墓石以外のコンクリート部分はブラシをかけています。
塚田委員長	分かりました。森林側は土を取って、様子を見ていただくということで。他の所にも1μ前後のところはあるのでしょうか。
永田専門官	川添の共同墓地が意見が多いところで、他では話はいただいていません。
塚田委員長	では、森林側の除染のみで、墓石側は何もしない方向で。これは、ご本人からの相談ですか。
柴野課長	ご本人とやり取りをしています。 具体的な対策は、どこまでできるか意見を参考にして、これからで考えていました。今回具体的に示していただいたので、そのように説明したいと思います。
塚田委員長	次回の検証委員会までに結果を示してください。
川道専門官	承知しました。

5 その他

◆ 町民からの質問について

発言者	内容
田中主査	(その他 に基づき説明)
塚田委員長	まず、累積でも放射線は蓄積はされません。
床次委員	急性被ばくと慢性被ばくの2パターンがあります。急性被ばくは原爆のようなもの。慢性被ばくは、福島のようなもので、低い線量で長時間被ばくするというもの。科学的な根拠からも、急性被ばくの場合リスクは増えるが、慢性被ばくは健康に与える影響はほとんどないだろうとされています。インドのケララ地方の積算線量が600mSvを超える集団でも、健康影響は低いことが分かっています。
塚田委員長	日本人の年間被ばく線量は、平均6mSvです。これは医療被曝も含めて。それで100歳まで生きるとして600mSvです。 自然被ばくだけだと年間2mSVです。
塚田委員長	眞田先生がまとめられている資料や、環境省で出している冊子等を提供して説明してあげてもいいと思います。

7 閉会

発言者	内容
事務局	(閉会挨拶)